

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後七十五年 (五十一)

第二章 民戦後世界のうねり・植民地時代の終焉とブロック化する世界 (十三)

五十一 「イデオロギー」が根付かないアラブ世界(一一三)



NATO(北大西洋条約機構)、SEATO(東南アジア条約機構)及びCENTO(中東条約機構、発足時はMETO(バグダッド条約)の三つの西側軍事同盟はソ連の共産主義に対抗する反共軍事同盟であり、ソ連封じ込め作戦であった。これによってソ連はユーラシア大陸の西から東まで完全に包囲される形となった。米国がこれほどまでにソ連を恐れたのは社会主義・共産主義思想が猛烈な勢いで戦後世界に浸透しつつあったからである。

米国はこれを「ドミノ理論」と名付けた。ソ連と国境を接する国に革命が起こり共産主義政権が生まれるとそれが次々と隣国に波及し、まるでドミノ倒しのように共産主義が地球上にはびこっていくと言うのが「ドミノ理論」である。その共産主義の波及を阻止するための「防共の壁」がNATO、SEATO、CENTOの軍事同盟であった。米国は自国が共産主義思想に染まると本気で心配した。それが下院非米活動委員会による共産主義者摘発の「赤狩り」旋風(俗称マッカーシズム)であった。

(続く)

荒葉 一也

E-mail: Arehakahazuyai@gmail.com